

平成28年度全道児童委員活動研究集会 分散会グループ協議概要

児童委員と主任児童委員別の分散会、児童委員と主任児童委員合同の分散会に分かれての協議、情報交換

分散会協議・情報交換のテーマ（協議・情報交換いただくテーマは下記の5つのテーマからグループごとに選択）

○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

※子育て中のお母さんの孤立を防ぐため、子育てサロンづくり、既存のサロンの運営協力、交流の場に参加しない母親との接点づくり、個別相談、親子が利用できる施設に関する情報提供などについての協議、情報交換

○テーマ2「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために」

※子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）と解決に向けた支援活動についての協議、情報交換

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

※地域の状況を知り、地域全体で児童を見守り育てため、子どもたちとの交流の実施、関係機関・団体との連携した取り組み内容や成果についての協議、情報交換

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

※いじめや不登校、非行など子どもの問題発見と、子ども（家庭）への支援の内容や民児協と関係機関等との協力・連携、学校との交流を深めるための取り組みについての課題や成果について協議、情報交換

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

※グループの皆さんでテーマを設定して協議、情報交換していただきます。

※この分散会グループ協議記録概要は、各分散会において提出いただいたグループ協議記録用紙の内容を直にまとめたものです。なお、重複する内容については一部省略しておりますのでご了承下さい。

公益財団法人
北海道民生委員児童委員連盟

第1分散会 グループ協議記録概要

司会者 加藤 義信氏 (室蘭追直地区民児協児童委員)
助言者 家村 昭矩氏 (名寄市立大学特任教授)

第1グループ

○地域の子ども課題についての情報交換

函館市：母子家庭で生活保護を受けている。母親はうつ状態で子どもを学校に行かせない。子どもは学校に行きたいが母親が心配。母親は病院にかかっている。思春期に入っている子どもを心配し、学校側が子どもに会いに行っても母親がシャットアウトしてしまう。病院も情報を出してくれない。

富良野市：母子家庭も増えている。PTA活動は男性が少ない。放課後、子ども等をバレーボール部や野球部に入れて、お母さん同士が仲良くするようにしている。主任児童委員との連携がうまくいっていない。お母さんがノイローゼになっておばあちゃんが守ってしまう。不登校の子どもがいても、中学校を卒業してしまうと地域は口が出せない。

函館市：子どもの世話をできないお母さんがいて、食事をさせているのか不安。でも、手は出せない。やはり個人情報が入りで、以前は入ってきた情報が出てこない。若い親は特に嫌がる。

岩見沢市：学校は子どもを悪く言わない。それぞれの父親が違う5人の子ども（兄弟）がいるが、学校からは何も出てこない。

子どものことを深く考えることはない。児童委員の役割は何か。今はいろいろとやってくれるところがある。そこに引き継げばよいのでは。

不審者に間違えられないように、地域の事業に参加して顔を知ってもらおう。テーマが5つあるが、児童委員が問題を解決しようとしてはいけない。専門家に任せる、つなぐこと。

子どもが少なくなって、外に出る子どもも少なくなっている。

士別市：小学校が3校で、郡部にも小学校が3校ある。朝日地区は子どもが9人しかいない。学校は子どもを悪く言わない。

岩見沢市：主任児童委員だけで子どものサロンをやっていたが、3年前から児童委員も加わった。最初、何をやっていいかわからなかったが、たまに幼児と遊ぶのも悪くないと感じる。

富良野市：クラブに来るお母さんはいいが、来られないお母さんが心配。普段は子どもと2人だけで家において、言葉の発達も遅いように思う。

主任児童委員との連携がうまく取れない。マップ作りをして援助者（ワンクッションおく方）を作っていたけれど、学校からの情報はどこに行っているかわからない。

- ・主任児童委員との連携がうまく取れていないのではないかと。

あの時、何かあの家庭の子どもが変だったなあと感じていた。後になってやはり不登校だったのかと思った。あの時言ってくれれば何かできたのではないかと。義務教育が終わったら何もできない。

- ・地域が広いのに主任児童委員は3人。大変なのはよく分かる。

函館市：地域の児童委員が情報を得て主任児童委員に伝え、一緒に問題に取り組んでいる。

湧別町：スクールソーシャルワーカーがいて各学校を回り、父兄や児童・生徒からも話を聞くので、今のところ学校から主任児童委員に情報は来ない。

北見市：毎朝の見守り、週2回パトロールを実施。児童館と連携している。

・下校時間になると（迎えの）車が並ぶ。時代か？

長い休みが終わると子どもが痩せている。給食が栄養源か？ 食事は作ってもらうのではなく、働いているお母さんのために作ってやる、そんな家庭もある。これも格差か？ 習い事をやっている子は、2つも3つもやっている。

第2グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

[学校との連携]

滝上町：入学式、卒業式の案内状が届く。

旭川市：学校評議員としてかかわり、情報を収集している。

名寄市：年4回安心会議を行い、見守り活動の取り決めをする。

北見市：学校の下校時に巡回を実施。

富良野市：学校の運営委員に参加。

函館市：小学校でボランティア活動。放課後の子ども教室に60人くらいの子どもの参加。

岩見沢市：学区訪問により連携を取る。

[町内会・地域との連携]

・認定こども園の訪問。

・『うぶごえへの贈りもの』の取り組み。絵本を贈る。

・子育てサロンや親子広場で地域の子どもとふれあう。

・夏は花火大会、冬はゲームなどの遊びで交流。

・地域での見守りや子どもへの声かけで、子どもに覚えてもらう。

[情報の把握]

・情報網を張り巡らす。

・「困ったときに連絡してね」と話す。

第3グループ

室蘭市：主任児童委員24名。主任児童委員が独自の子育てガイドのパンフレット『こたろー』を作成している。サロン名と場所、関係機関の連絡先を掲載。

北見市：主任児童委員がこんにちは赤ちゃん訪問に取り組んでいる。学校と児童館訪問は主任児童委員がリーダーシップを取り、児童委員と一緒に活動する。

恵庭市：児童委員が学校訪問をするが、スクールカウンセラーがいると断られる。

白老町：学校訪問ではアレルギーの対応に苦慮。弁当を持参の子がいる。地域児童ボランティアとして子どもたちと通学合宿をしている。主任児童委員は若く、合宿に参加しない。

岩見沢市：18歳までの育児支援のため、市が子ども課を作った。常設親子広場と子ども広場がワンフロアにあり、子どもを市全体で育てる体制が整備された。

名寄市：市作成のガイドブックがあり、乳幼児から高齢者に関する事柄が全部載っている。学校は校長や教頭によって対応が変わる。

函館市：児童館の運営委員会や校外生活委員会に出席。子どもたちの様子について話し合いを行っている。キッズ広場の取り組みを行っている。

○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

- ・赤ちゃん訪問のときお母さんの様子を見て、それぞれ相談を受け、導き話し合う。
- ・学校側は、迷惑がる校長と聞く校長がいる。学校に遠慮せず、一步踏み込んで対応した方がよい。
- ・不登校生徒に関し、学校、主任児童委員、両親、祖父と話し合いを持ち、生徒が登校するようになった。
- ・児童委員から見ると、主任児童委員は仕事を持っているから忙しいと言って活動してくれない。主任児童委員の側は、耳が痛い但児童委員に助けられている。連携を大切にしている。

第4グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

北見市：児童がいる家庭の訪問によってコミュニケーションが取れた。主任児童委員と一緒に年5～20回訪問している。乳児宅を訪問し絵本と無料の託児所利用券を贈る。

岩見沢市：主任児童委員が児童館で赤ちゃん広場を開設。児童委員は児童館で親子広場を開設している。町会とタイアップして登校時と下校時に見送りと出迎えをしている。周知は町会の回覧板を活用。

名寄市：主任児童委員会を発足。その場でいろいろな情報交換を行っている。

平取町：教育委員会の声かけでいろいろな情報を入れてくれる。いじめが数件あったと情報を入れる。主任児童委員として、サークルやボランティア活動をしている。

函館市：児童館で子供会を実施。高齢者も一緒に参加する。地域全体の資源回収などは子どもと一緒に実施している。年2回の校外生活委員会時に実施。子どもの交流関係では、七夕祭りや港祭りのときに子どもと高齢者が一緒に交流を深めている。

第5グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

旭川市：子どもが生まれたら絵本をプレゼントしている（旭川の本と旭川出身の絵本作家の本2冊）。また、紙のエプロンも配っている。体操やクリスマス会等の活動をしている。

岩見沢市：学校の授業参観や給食試食会、子育てサロンに参加。小学校の学芸会の出席や児童館での活動、七夕等。

北見市：待機児童はいないが、保護者の要望に答えていない。

北広島市：主任児童委員はまだしも、児童委員としては小学生などの子どもの接点がない状態。町内会ではお祭りなど行事はある。

伊達市：統合のため地域に中学校がなくなり、中学生との接点がなくなる。小学生とはゲームをして給食を試食し、小学校の行事（学芸会、卒業式）に参加している。

- ・非行などを見ても、見ぬふりをするのがなくもない。
- ・児童委員だからといって自ら行動に出るわけではないが、町内会の役員など掛け持ちでいろいろな活動に協力している。
- ・訪問しても子どもを見せてくれず、抱っこしたくても消毒をするように言われる。
- ・虐待はあまり見られない（行政側で秘密にしているのではないか）。児童委員には報告されない。
- ・事例として、義父から子どもがいじめられるケースがある。
- ・住宅地やアパート等で虐待が多いようだ。昔からの農村などには虐待はあまり見られない。
- ・老人クラブ会員が、小学校に行って世代間交流をしている。
- ・歴史の古い小学校では、バザーの催しや花火の打ち上げ、盆踊り等に、里帰りの人も含め全児童17名の3倍の子どもが参加している。
- ・地域と学校で交流を深めている。少子化なので動きやすい面もある。
- ・地域と学校のふれあいまつりがある。田んぼのアートもやっている。

第6グループ

- ・高校が2校あって、落ち着いている。花壇の整理コンクールで表彰された。
- ・子どもの声が行き交う地域へ。後継者不足とならないように引継ぎをスムーズに。
- ・いじめゼロ運動を小学校から取り組む。小学生が公共施設のトイレ清掃を行う。
- ・主任児童委員だが、民生委員の仕事が中心になりがち。いろいろな「ゼロ運動」はよい。
- ・子どもがいない。保護司をしているが、問題のある家庭はその都度転居する。
- ・同じ家庭のことで何回も対応を迫られる。
- ・不登校の家庭は片親で、薬を飲む。元旦那は金目当て。頼りは民生委員。
- ・高齢者や子どもが住みたいまちにするため、幼保一体へ若い人を呼び込む。
- ・小さな子を持つ母親のサロン化を。ソフトやハード面で。
- ・子を持つ家庭へは入りづらい面もある。再婚や若い親等。
- ・外とのつながり（サロンなど）を増やしてほしい。孤立しないような取り組みを。
- ・家庭の中身がなかなか見えない状況。見せたくない夫婦の問題か。
- ・今も昔も、若い人は…。こちらが入っていかないと。今の親は怒られたことがないためモンスターペアレントに。
- ・学校訪問は、ガード状態から抜け出す方策が必要。年数、回数がある。守秘義務と学校を開くかかわりとの永久の問題。情報共有と公開の問題。教員の生育歴を想像すると叱られてないからか、きびしさが不足している。
- ・定例会に市職員も参加するが、個人情報の壁がある。学校から情報をもらうしかない市町村もある。知られたくないことが流布される。（〇〇が言ったんでしょ、とか）
- ・秘密は頭の中にとどめる。文書はシュレッダーに。
- ・責任の取り方。虐待は様子を見よう、という場合じゃない。
- ・自分が問題を抱えた時に、どこに言ったらよいのか悩んだのではないかという思い。
- ・通告してもその後のことが心配。
- ・「私がやります」という行政の声がほしい。これを動かすのは、私たち児童委員だ。

第7グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

富良野市：年4回、ふれあいのつどいを行っている。対象は小学2年生で、独居高齢者と食事やゲームをして、1日楽しんでいる。

北広島市：あいさつ運動で3日間学校の前に立つ。十数年続けている。

各行事の参加。主任児童委員が中心になって作った『しゃべり場』では、お母さんたちと一緒に話をしたり悩みの相談を聞く。子どもたちと一緒に遊んで、カレーライス作りに取り組んだ。また、児童委員と幼稚園、保育園、学童保育の先生、小学校や中学校の先生など50人くらいが集まり、話をする場を作っている。

留萌市：小学校の児童が100人くらい。各行事の案内を児童委員に送ってくれるので参加している。年3回の懇談会は、各小中学校の先生から招待され、ざっくばらんに話をするのでつながりが強くなり、いじめなどは1件もないという。また、町内会の行事に参加してお手伝いをし、新入生を集めて食事をしている。

室蘭市：主任児童委員がとても頑張ってくれている。今日のいろんな取り組み情報を持ち帰って伝えたいと思う。

函館市：現民児協会長が学童保育所を作り、無料で週1回行っている。子どもたちと流しそうめんをするなどで、お楽しみ会を行っている。学校日より、行事の案内もいただく。

北見市：5月の連休明けに児童見守りのためスクールゾーンに立って交通安全の旗を持ち、子どもたちに顔を知ってもらおうとしている。各行事の案内を送ってもらって参加している。児童委員に協力していただいて高齢者訪問のときに少し注意してもらい、学校に行っていない子どもの情報をもらっている。

第8グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・子どもに対する行事が多い地区。世代交代で30代の家庭が多い。
- ・子どもとは顔なじみで子どもの名前は覚えている。お母さんとも顔なじみ。
- ・学校とも交流があり、行事などに呼ばれることがある。
- ・中学生の挨拶がよい。学校で指導しているのではないか。
- ・遊びに出ても子どもがどこにいるのか分からない。子どもの遊び場を立ち上げる。その結果、市の方からも声が掛かり、予算が増えて学童保育を開くことができた。その場で子どもから情報をもらえるようになった。
- ・年4回の子ども（小学生）の見守りの会で情報がもらえる。
- ・年4～5回主任児童委員の部会を開催し、情報交換している。
- ・お母さんが立ち寄るような場所にパンフレットを置いている。子育てサロンで相談を受けることもある。
- ・学校訪問をしている市町村が多い。
- ・中学生をあまり見かけない。忙しいのか？
- ・子どもや人が集まる場所に出向き、情報を集めている。自分から出向いていくことで情報が集まる。

第9グループ

- 苫小牧市：小学2年生と児童委員が畑をつくる（メイクイン、男爵、北あかり）。生育記録を取り、掘り起こしてふかして生徒と食べる。ともに汗を流すことに感謝の気持ちを持ってもらう。
- 石狩市：登下校時の見守りを実施。夏は地域の見守りパトロールを行う。
- 富良野市：学校行事の運動会や学芸会に参加。
- 旭川市：学校行事に参加。そば打ちでは高齢者と子どもが一緒になって交流する。新小学生と高齢者の新年会では食事とゲームを楽しむ。
- 帯広市：小学校のお琴の授業、運動会や学芸会に参加。放課後のどんぐりの会では、木工やお茶を楽しむ。
- 岩見沢市：主任児童委員が親子広場を運営。年末には餅つきをし、児童館で配っている。小学校1校と中学校2校を学校訪問。3校会議も出席する。学習ボランティアでは主任児童委員と児童委員がお手伝いする。小学校の入学式、卒業式、学芸会に出席。

第10グループ

- 北斗市：活動して腑に落ちない。子どもたちの見守り活動をどのようにするとよいのか。
- 富良野市：お年寄りが多くて、子どもが少ない。
- 旭川市：具体的には取り組んでいない。挨拶運動を中心に町内会が活動している。
- 苫小牧市：学校訪問は入学式、卒業式、運動会、学習発表会や参観日等。また、児童館行事のお手伝いも行う。
- 帯広市：登下校の見守りは町内会役員が協力する。
- 岩見沢市：栗沢地区は小学校2校、中学校2校があり、主任児童委員が主に訪問。年1～2件、虐待や登校拒否等がある。学校からの情報は少なく、他の関係者から情報が入る。
- 豊富町：毎月の民児協定例会に学校長が参加して行事のお知らせの他、問題を抱える児童の状況を知らせてくれる。
- 北斗市：子どもを救う会が4つあり、小・中・高校と幼稚園の校長、PTA、民児協、警察が参加し、年4回会議がある。また、主任児童委員が中心となって学校訪問をしている。
- ・昔の子どもと比べて今の子はおとなしい。タバコを吸わない、群れない。
 - ・不登校気味の子どもがいて、起立性調整障害を発症していて気になっている。
 - ・教室に入れなくて、校長室で過ごす子どももいる。
 - ・親の離婚に影響される。母親の恋人が来ていると、車に子どもを待たせている。
 - ・親の都合に子どもを合わせる人が増えている。夜遅くまで起きていて朝起きれない、学校に遅刻、朝ご飯を食べられない。
 - ・主任児童委員がどこまで関わればよいか分からない。
 - ・町の規模によるが、声を掛けづらい。不審者に間違えられる。
 - ・挨拶をすると気持ちがいい。何度も声を掛ける。
 - ・行事参加する子どもが少なくなっている。ラジオ体操の参加者も少ない。
 - ・子どもみこし、お稚児行列等、子どもの参加が少なくて困っている。
 - ・母親同士LINEで連絡を取り合うも、仲間はずれもある。

豊 富 町：子育てサロンは保育園が中心に行う。

旭 川 市：道民児連の支援（助成金）を受け、3年かけてサロンを整備した。毎月1回ずつで3歳以下の親子が30人以上集まる。児童委員全員が参加。33地区中19地区は民児協が中心に実施。赤ちゃん訪問で絵本をプレゼント。その時にサロンのお知らせをして、来てもらう。

第11グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・育成連絡期成会があり、住民が子どもを守る。
- ・主任児童委員が学校評議員になっているので情報を得られる。
- ・赤ちゃんが誕生すると市長からの贈り物を届ける。
- ・旭川市は児童委員も贈り物を届ける。
- ・主任児童委員は他地区の問題に口を出せない。
- ・お助けおばあちゃんの役割を活用してもらう。どんな集まりにも顔を出す。
- ・地域の状況を知るため、主任児童委員だけでなく児童委員も情報を共有してともに活動する。子どもとの交流のため、チーム〇〇のように、「さあ、みんなで行ってみよう」。学校に積極的に入り込んでいこう。
- ・学校訪問というシステムを活用し、PTA、町内会連合会、児童委員で連絡育成会議に結びつける。
- ・夏休みのラジオ体操や盆踊りは交流の場にできる。

第12グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・2歳未満児の親子の遊び場を提供して見守る。12地区で年1回開催。
- ・学校訪問が難しくなっている。参観日などの行事に参加。
- ・年に2回、学校の様子を話し合う機会を設けている。
- ・こんにちは赤ちゃんで絵本を届けに行っている。
- ・水曜日に街頭で声かけを実施（登校時）。
- ・放課後、土曜日の見守り（夏・冬休みを除く）。毎月3回実施。
- ・多様な体験が必要。
- ・昔の遊びなどを行うことによって、かくれた才能を見出すことができる。
- ・自己肯定感をいかに育てるか。あきらめが早い。現在の子どもは結果だけを見ているので、いかに根気よく継続させていくかが課題。
- ・何か一つすぐれているものがあればよいという時代でなくなっている。よいところを伸ばしてやる必要がある。

第2分散会 グループ協議記録概要

司会者 加藤 真知子 氏 (旭川市東旭川地区民児協主任児童委員)
助言者 多田 伝生 氏 (児童養護施設旭川育児院院長)

第1グループ

○各参加者より、地区の実態や問題点を出し合う。

岩見沢市：就学前の子どもを対象に、児童館で親子広場を実施。この他に市が関わる『ひなたっ子』がある。

北広島市：今年から子ども子育てサロンを開催。今年の夏休みに小学校4、5年生を対象にカレーライスを作り、簡単な工作を実施した。無理をしない、子どもたちが多く来ることに期待しないつもり。

- ・おしゃべりをしてもらう所が多いことが大切。
- ・サロンに行ったついでに相談できる場所づくり。
- ・学校で定例会を年に数回行い、子どもとふれあう。
- ・児童委員と主任児童委員が協力し、サロンなどを運営。
- ・楽しく、いろいろな行事を行う。

第2グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・主任児童委員と協力し、親子広場に参加。行政と年に1回情報交換を行う。
- ・子どもが減少。学校行事などの情報が少なくなったが、道の支援（すきやき隊？）で週1回、各ボランティアに携わる。3年くらい毎週行いたいと思い、サポーターとして登録した。
- ・不登校の子どもがいる。その親御さんと話し合いの中で、本人を学校に戻すのではなく、日常生活の改善を考えること、お母さんには元気でいてほしいので、愚痴を聞く場を設けている。
- ・市から高齢者名簿などは配布になるが、児童に対しての情報が少ない。
- ・主任児童委員に開示されている内容を児童委員も共有できるように、定例会で話してほしい。
- ・地域の小中学校との情報交換の場がほしい。そのようなシステムづくりを望む。

第3グループ

枝幸町：毎月主任児童委員が学校訪問をしている（ソーシャルワーカーも参加）。課題がある家庭を個別に訪問する。

北斗市：毎月市役所の子育て支援課と情報交換を行う。年に2回、学校、児童委員、主任児童委員で情報交換。子育て支援にも参加。

岩見沢市：隔年（年1回）で学校訪問を行う。子育て広場と常設の『ひなたっ子』は児童委員も一緒に関わる。家庭訪問は主任児童委員と協力して実施。

北見市：奇数月に年6回会議を行い、情報交換を行う。学校訪問も実施。第2子以上は主任児童委員が訪問し、家庭の状況を把握。

富良野市：学校訪問を実施。母子家庭は主任児童委員が訪問。いじめ対策委員会が年2回開催される。主任児童委員と児童委員が参加。

函館市：年1回講演会を企画。子どもに関して保健師や児童相談所と情報交換している。虐待でネグレクトされた子が国の子寮（児童養護施設）に入っている。

旭川市：定例会は毎月開催（28名。うち主任児童委員2名）。1か月の地域の問題を共有。警察と連携。

- ・オレンジリボンには温度差がある。
- ・家庭訪問は『ブックスタート』から始まる。
- ・学校の校長が民生児童委員を知らない。
- ・学校行事に参加。評議員などとしても参加。

○テーマ3とテーマ4を合わせて話し合う

- ・歴代の児童委員、主任児童委員が基盤を作っている。
- ・18歳以下の子どもがいる家庭情報を主任児童委員に渡している。（函館市）
- ・市役所が必要な情報を開示している。
- ・自治体によっては子育て支援広場にも児童委員が参加している。
- ・定例会や委員会で、児童委員と主任児童委員が情報を共有。
- ・家庭訪問することによって、その家庭の様子が分かる。
- ・地区の児童委員が誰であり、どんなことをしているのか（活動）を知ってもらうことも大切である。
- ・児童委員、主任児童委員はどこまでやればいいのか？
- ・子育て支援の無料利用券（1時間）を配布する。（北見市）
- ・虐待家庭で子どもが孤立しており、児童相談所にも相談した。

第4グループ

室蘭市：12の民児協中、3民児協で子育てサロンに取り組む。主任児童委員2名と児童委員8名で15年くらい前にお母さんに呼びかけて始めた。月2回、10時から12時までで、けがをさせないことを優先し、一緒に遊びおやつを食べる。お母さんたちにもコーヒーやおやつを出し、親同士の交流を図る。大きくなった子どもが野菜を持ってくるし、楽器を弾きたいと遊びに来る。

- ・500人くらいの学校の評議員をしているが、地域と学校、PTA等と一緒に学校を作ろうとしていると感じた。
- ・最近、子供会の活動が少なくなり、加入しなくなっている。お母さんたちの交流が必要。子育てサロンは誰かが立ち上がるとすぐできる。
- ・民生児童委員の役割は老人の見守りと言われたが、児童委員でもあることを意識して、研修などにどんどん参加して活動していきたい。

第5グループ

○テーマ2とテーマ4を選択

苫小牧市：児童相談所が室蘭にあり、遠い。情報交換がない。

学校との交流を年2回（春と秋）行い、情報交換をしている。小、中学校との交流の他に、保育園も巻き込みたい。学校だよりが来る。

北 斗 市：大野地区では小学校と交流している。

函 館 市：地域が二極化している。ネグレクトと虐待が多い。母子家庭の小学3年生の体にあざがあると学校から連絡が入る。内縁の男によるものか。学校と連絡を密にしていると、あざが減った。

第6グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

富良野市：交通ボランティアで子どもと交流。中学生が主体になって、高校生や児童、地域の高齢者とも連携していじめサミットを行った。

苫小牧市：児童相談所誘致の署名に取り組む。地理的な問題がある。

函 館 市：修学資金の返済や母子家庭の母親の心の安定を図る。老人の情報は出るが子どもの情報は出てこない。子どもが多い家庭は生活費が不足している。

遠 軽 町：学校行事への協力で学校側から情報が入る。親のお金の使い方が問題。

室 蘭 市：乳児健診未受診の人に連絡を取る。ケース会議が開かれ、保育士、学校、児童委員、警察や児童相談所、発達支援センター等が参加する。

第7グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・小・中学校との合同避難訓練があり、参加。学校から避難場所（高台）までは、年2回草刈りをしている。
- ・学童保育の通路を夏は児童委員が草刈りをしている。冬は除雪が大変。それは行政でやってほしい（ボランティアにも限界）。
- ・個別の支援？ も大切だが、行政につなげることも大切。
- ・宿泊研修している学校もあり、最初は1つの小学校での個人の取り組みだったが、今では地域や児童委員が関わっている。3泊4日で、勉強もしてむかし遊びをして、抽選もあり大人気。子どもが嫌だと言っても、親が行けと言う（親が楽だから？）。児童委員として子どもに関われることはいいことだと思う。
- ・地域の児童委員は町内会の役員も兼ねているところもある。大変だけれども、良いところもある。
- ・年1回小学校の先生との集まりがある（情報交換）。
- ・子どものサロンがある。5、6年前から見ると子どもが少なくなっている。
- ・地域との連携については役割分担がされていて、すべてに関わるのではなく、参加の依頼が来たとき関わるというケースもある。
- ・主任児童委員と児童委員の退任年齢が違うのはなぜ？ 今の時代、同じでもいいのではないか。慣れている人が辞めてしまうのは、人材としてもったいない。
- ・地域では民生委員や児童委員という存在がなくても、家族や友人、近所の人たち、身近な人たちが関わることによって確立していく社会が理想です。今の時代は難しいかもしれませんが、いつかそんな時代が来ることを望みます。

第8グループ

○テーマ5 「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・この研修に参加して、普段は主に民生委員として活動するが、児童委員を兼任しているということを認識することができた。
- ・全員若しくは部会ごとに学校や保育園等を訪問している。
- ・問題が起きても、学校側で隠される場合もあった（学校で何とかします）。
- ・新1年生の2/3が学童保育を利用。母子家庭や共稼ぎの方が多い。
- ・ケース会議に呼ばれないこともある。
- ・問題のある家庭は、他の委員やケースワーカーとペアで行動している。
- ・一人で訪問するのが難しいと判断した場合は、包括支援センターの方や主任児童委員と二人で訪問するようにしている。
- ・学童保育に通っても仲間に入っていけない子もいるので、親同士のネットワークを作っておくことが大事ではないでしょうか。
- ・赤ちゃんが生まれると、主任児童委員と担当委員がペアになって訪問し、絵本をプレゼントしている。母親との接点を作っている。
- ・自治会とのつながりは、その地域によってばらつきがある。
- ・今回のような講演を聞くと身になると思うので、活動に活かすため積極的に参加してほしい。
- ・学校からの行事案内は地域によってあったりなかったりするので、学校とのつながりが大事。
- ・子どもたちに道で挨拶しても不審者に思われる。朝の声かけは腕章をして、学校の前ですると子どもたちも元気に挨拶を返してくれる。
- ・児童委員も通学路の見守りなどで顔を売る努力もしているのではないかな。
- ・災害があったときの学童（小学生）の支援は、児童委員として防災面でどのようにしていくのか。

第9グループ

- テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」
 - ・不登校になった小学生（生活保護受給家庭）の見守りを依頼されたが、情報がなく困っていた。ケースワーカーから情報をもらった。
 - ・赤ちゃんが誕生したら絵本のセットを贈っている。これにより母親との接点を作る。
 - ・週1回、子育てサロンを実施している。
 - ・学校行事に積極的に参加している。
 - ・核家族化が進み、主任児童委員の役割が重要になっている。

第10グループ

- ・児童の問題が少ない。14年目だが、ケースワーカーからの1件しかない。
- ・学校との連携は2、3年前まで続けていたが、校長が変わると続かない。
- ・子育てサロンを7年前に立ち上げ、年に10回開催。月に10人くらい参加。
- ・児童委員と子どもとの直接の交流がない。小・中学校の催しには招待される。
- ・『うぶごえへの贈りもの』事業を実施。子どもが生まれたときからの関わりを持ちたいとの狙いで、訪問のきっかけになる。主任児童委員だけ、児童委員だけ、一緒にと地区によって配布の方法は異なる。5、6年前から実施し、絵本を配る。裏表紙に『うぶごえへの贈りもの』旭川市と記載されている。

- ・主任児童委員は 55 歳で交代したが、後継者がいないためさらに 15 年務めた。大きな事故や事件はなかった。
- ・教育委員会とも話し合いを持つが、プライバシーの問題が出てくる。
- ・学校訪問は校長や教頭しか対応しないので、状況はよく分からない。教師は地元に住んでいないし、本音が聞けない。
- ・父親がけがで働けなくなり生活保護を受給。夫婦げんかになり子どもにも影響が出た。警察、教師と児童委員で対応した。今は夫婦で働き、保護は受けていない。
- ・学校だよりが回覧される。親子広場で年 4 回関わる。企画は主任児童委員が担当する。町内会と連携し、子どもの調査は年 1 回しているのので、情報をもらう。
- ・町内会行事（冬まつり、七夕、盆踊り、ラジオ体操）に関わってはいないが、状況は把握している。
- ・自治会役員と重複しているので児童委員より仕事が多く、気持ちのゆとりがない。今後は分けてもらわないと寿命が縮まるので、働きかけていきたい。他の地域でも自治会役員や老人会の役員と重複しているところが多い。無理をしないで対応するしかない。

第 1 1 グループ

○テーマ 2 「子どもの問題発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力のために）」

- ・被害に遭っている子どもを守るため町内会にも協力してもらうが、個人情報との関わりが難しい。そんな中で、どんなことがあっても守っていかなければならない。
- 富良野市：小学校で子ども地域ネットワークがある。挨拶からスタートして、交通安全等にも関わっていき、これからもチャレンジしていく。
- 名寄市：農村地帯だが、全 60 世帯が P T A 役員になっているので、盆踊りやキャンプ、雪まつりが活発に行われる。
- ・親の孤立があるため、周りの子どもと交流できない子がいる。声かけをして何とか参加できるようにしてあげたい。

第 1 2 グループ

○テーマ 3 「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- 旭川市：子どもが生まれたら主任児童委員が把握し、定例会で報告する。
- 名寄市：民児協全体の会長会に主任児童委員会の会長も出席する。小学校の安全安心会議が年 3 回開催される。
- 伊達市：子どもの検診時に、主任児童委員 2 名と児童委員も出席する。
- 帯広市：子どもを守る会があり、地域のまつり行事に子どもを参加させる。地域が子どもを育てている。
- 岩見沢市：何かちょっとおかしい（ことがあれば）、地域にいる児童委員だから気づくことで、主任児童委員につなぐ。閉鎖的な学校とのつながりは主任児童委員を中心に進める。常日ごろから行事などに顔を出すことで、先生にも子どもにも〇〇お婆さんと覚えてもらい、学校が民児協に話しやすい環境を作りだす。

第 1 3 グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

岩見沢市：町内会行事の際、子どもたちと関わりを持つため児童委員も参加する。クリスマス集いに独居高齢者（75歳以上）と子どもたちが参加して交流する。

- ・町内会から声が掛からないと、児童委員としての関わりは少ない。

北見市：主任児童委員と児童委員が一緒になって活動している。学校との関わりは主任児童委員が多く、児童委員としては少ない。

- ・町内会のOB会（元役員）の方々も学童クラブの支援や登下校の見守り等をする。会長の指導で班単位に行う活動に注目している。

北見市：赤ちゃんが生まれて1か月で訪問する（第2子から）。第1子は保健師が訪問する。

- ・子どもとの関わりは児童委員としてもあるが、交通、防犯、町内等、いろいろな所属の中で子どものことを考えている。
- ・子どもが少なく高齢者が多い。学校の生徒も少なくなっている。町内会活動でも子供会などが少なくなっている。

第3分散会 グループ協議記録概要

司会者 橘 勝 治 氏 (富良野市民児協児童委員)
助言者 藤 原 里 佐 氏 (北星学園短期大学部教授)

第1グループ

函館市：地域によるが、子どもの姿がなく高齢者が多い。

小樽市：学校とのつながりのため校長とも話し合いもする。

- ・町内会と児童委員のつながりは、ともに役員として協力し合う。
- ・見守り隊の出動は児童委員が主体と老人クラブや町内会が主体の2パターンがある。
- ・子どもたちを守るためには町内会、学校、民児協、老人クラブの協力が必要。
- ・小学生の不登校問題があり、学校と家族と福祉事務所の話し合いで解決した。
- ・町内会行事の中で子どもたちの仲間に障がい児も入れている。比較的若い世帯が多い北広島市がうらやましい。

第2グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

三笠市：コミュニティスクールを通じてスキーや野球を指導している。学校の行事で稲刈りのお手伝いもしている。

岩見沢市：連絡協議会を通して子どもたちの見守りをしている。構成メンバーは学校保護司、警察、自治会関係者と児童委員となっている。協議会で事例報告があり、子どもから刃物を持った男性がいると通報があったが、実際は植木バサミで剪定をしていただけという笑い話もあった。

北広島市：地域行事に参加。主に子どものイベントなどのお手伝いをしている。三笠と同様にコミュニティスクールに委員として関わりを持っている。

江別市：ひとり親世帯が多く、母親はパートに出ていく。子どもが帰っても母親がいないため寂しがつているが虐待やいじめはなく、地域が見守っている。自治会の行事も子どもを中心に行っている。

帯広市：特殊な地区で小学校のPTA会に住民の全戸が加入している。子どもたちの活動に地域の全員が関わっている。

第3グループ

岩見沢市：母親が認知症で長男が精神障がいである家庭があり、ケースワーカー担当部署と相談した。

江別市：母子家庭で母親に精神障害があり子どもは不登校になった。市の担当と相談している。

北広島市：市の職員と相談しても、個人情報の問題で解決にいたらないこともあった。

第4グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- 帯広市：町内会に加入していない家庭での不登校やいじめ等があり、主任児童委員とともにどう対応するか困っている。
- 岩見沢市：年1回学校訪問するが不登校もいじめもないという。中学生は児童委員の顔がわからないようだが、小学生は覚えていてくれる。
- 苫小牧市：以前は5,000人くらいの担当地域が13,000人くらいに増加した。若い人が多く学校もマンモス化。不登校が多いため学校と月に1回連絡会議を持つ。問題が起きるごとに、学校、児童委員と市の子育て課でケース会議が行われ成果がある。さらに足りないときは児童相談所にも入ってもらうことを考えている。
- 帯広市：農村地区で子どもも少なく、スクールバスで登校する。不登校もない。
- 苫小牧市：小学校と中学校担任と児童委員がグループで話し合う機会が年1回ある。
- 富良野市：いじめは難しいし、先生が見えない、分からないところでの問題が多い。情報保護の問題もありなかなか先に進めづらい。
- 岩見沢市：市営住宅で子どもが7人の母子家庭。主任児童委員、町内会、市役所も入って対応しているが、今後は児童相談所にも入ってもらうための対応とする。

第5グループ

○テーマ2「子どもの問題発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力のために）」

- 江別市：体操着に着替えたときに、あざがあることで虐待が発見された。高校に行くと言われたようだが、本人は行きたい。学力が足りなかったが何とか高校に入り、卒業後自衛隊に入った。
- 江別市：グレーゾーンの子が70名いる。学校に支援学級の設置を要請し、5年がかりで出来た。2年前は5名で今年は8名。
- ・委員20名のうち主任児童委員が2名。幼稚園2、保育所1、小学校2、中学校1校あり、毎年すべて回り不登校の情報をもらう。いじめや虐待の情報ももらう。障害者施設もあり、空いた学校を使用する授産施設もあり、ここも回る。保護司などとも連絡が密である。
- 当麻町：中学入学者の98%が部活をする。入部後にグループができて自然にいじめっぽいことが始まる。父母や子どもたちの情報をもとに必要部署に連絡する。救急車が来て、後日赤ちゃんのことで要対協から招集がかかった。グレーゾーン同士が結婚し、経済観念もなく子どもができる。赤ちゃんは揺さぶられ症候群になっていて、その子の兄弟も虐待があるようだ。
- ・就学援助の児童委員の関わりに地域差がある。

第6グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- ・保育園児あるいは幼児等に孤立感を持たせない。子育てに悩みを持つお母さんと経験のある児童委員が定期的に交流を持っている（親子広場、常設広場）。
- ・児童委員が新生児の家庭に絵本を届け、交流（人間関係）を図っている。
- ・定例会に小・中学校の校長に出席いただき問題点を共有し解決に向けて話し合う。逆に学校を児童委員が訪問して関係を深め、問題点をオープンにしてもらっている。

- ・児童委員は待っているのではなく時間をかけて訪問し、関わることにより問題や情報をつかみやすくなるので、各方面（警察、町内会など）とのネットワークにより解決に向けて努力する。
- ・貴重な協議結果を地区に持ち帰り、よりよい活動の実践を働きかける。

第7・8グループ

- ・子育てサロン、認定子ども園の放課後に本の読み聞かせなどが取り組まれている。
- ・小・中学校への訪問で、校長や教頭から現状などの話を聞く機会が作られている。
- ・母子と児童委員の接触のための、無償の場所の確保が課題になっている。
- ・お母さんにとって子育てが魅力となるような企画が必要。
- ・ボランティアや子育てサロンに関わる人の確保のため交通費の補償が必要。
- ・町内会の子どもが参加する行事に児童委員も参加し、委員の顔と存在を知っていたく。
- ・小・中学校との連携には、教員の児童委員活動への理解が必要。
- ・交流場所の確保のために、個人の家庭や廃校の利用も検討しては。
- ・交流行事の案内では、コンビニ、集会所、小児クリニック、町内会等へのポスターの掲示も有効では。

第9・10グループ

富良野市：子どもの問題に取り組まなければならないと思うが関わりづらい。学校関係の問題は主任児童委員が対応している。母子家庭の支援と思うが、実態が把握しにくい。

小樽市：学校の管理職によって対応が異なる。不登校や虐待は見受けられない。

松前町：小学校3校と中学校が1校ある、スクールバスの利用で融合している。統合で学校がなくなり、競争心も弱くなっている。

- ・学校や保護者の情報把握について、個人情報保護法のしぼりの中、各関係機関などからの情報開示が難しい現状にあることを認識した。
- ・不登校の問題は文科省の方針の変更（適応教室）などもあり、学校の取り組みや塾の利用など親の対応が分かりにくい状況もある。
- ・個々の状況について、親や学校、地域や関係機関が十分に意思の疎通を図ることが大切である。

第11グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

富良野市：幼児から高齢者まで集まり、花植え、缶拾い、収穫祭で交流する。7人家族の夫と妻が子どもの世話をしないため対応に悩んでいる。

登別市：過去に虐待死事件があったことで市から情報を流してもらうことができ、現在学校とのつながりが無い。不登校児の家族から対応を求められている。

富良野市：市から何かあったら伝えてと言われるが、情報がもらえない。訪問しても出てこないためどうしたらよいか分からない。子どもの見守りはしているがどこに住んでいる子どもなのかが分からない。

- ・行政は都合が悪くなると個人情報のことを持ち出され、話が進まない。
- 江別市：小学校との交流や学童保育の見学などに取り組んでいる。
- ・情報を流してもらえないのが活動のネックになっている。

第12グループ

- ・担当地区の世帯票と児童名簿の引継ぎは各地で行われている。
 - ・児童の名前の確認と名簿の作成もある程度取り組まれている。
 - ・見守りと交流の実践では、自治会や町内会と連携して活動を実施している。
 - ・おはよう、お帰りの声かけが取り組まれている。
- 登別市：町内会事業での交流として、(年4、5回)ラジオ体操、餅つき、百人一首、ジンギスカン等が行われる。

第13グループ

- 江別市：樺太引揚者の集落があったが、今は学校で差別を防いでいるので平穏になった。
- 深川市：全校生徒が12人なので、全員の名前が分かる。買い物は店が遠いため親と一緒に行く。
- ・行政は関連情報を開示してくれなければ、児童委員は大変。
 - ・問題が起きたら関係者に出席してもらい、どこが担当するかを決める。

第14グループ

テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・子どもは家庭で、学校、というのが、地域で見守り育てることが必要です。
- ・子どもはほめて育てる。
- ・命に関わるようなときは子どもをしっかりと、親にも報告する。
- ・核家族化が進んでいるので、親の教育も大切です。
- ・小学生と独居さんの交流会はよい情報交換になる。
- ・参観日にN T Tの講義を受けるのは、親子のコミュニケーションになる。

第15グループ

- ・以前、中学2年生1人だけ無視され続けたことがあった。親よりも娘の方が強かったので助けられた。担任の先生にも話をしたが、言っても無駄だった。親の方が少し強くならなくてとは強く思った。
- ・コミュニティスクールを行っている。学校の評価を行ったりアンケートをとったりし、地域住民が子どもを見守り育てていく。地域の方が得意なことを子どもたちに教えるなど、地域ぐるみで学校に関わっている。
- ・学校はなかなか話したがらず、コミュニケーションが取れない。主任児童委員とは情報のやり取りが少しはあるようだが、児童委員には話が来ない。
- ・今現在、虐待のことが心配だが情報が入ってこないのが困る。
- ・児童委員として情報網を張りめぐらせることが必要。

- ・子どもたちに声を掛けたいが、都会では声を掛けると不審者と思われたり、学校に通報されたりで、なかなか声を掛けづらい。
- ・いじめられている話を聞いても、本人からは聞きづらい。
- ・これからは、いじめよりも虐待の方が心配ではないか。
- ・昔と今では、いじめの内容が違うのではないか。

第16グループ

- テーマ2「子どもの問題発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力のために）」
 - ・学校から情報を出してもらおう。
 - ・学校からの要請で訪問して見守る。
 - ・学校との連携を大事にする。
- テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」
 - ・母親の話から不登校の原因をさぐり、専門機関に橋渡しをする。
 - ・子どもの考え方にあわせて児童相談所に橋渡しをする。
 - ・地区の家庭の交流活動を実践している。

第17グループ

- ・地域に子どもが少なく、大人が子どもにおはようと挨拶すると驚かれることもある。地域によっては子どもから挨拶するように学校指導がなされている。ラジオ体操をしても、数名の子どもが参加するが、ほとんどは高齢者が主体となっている現状にある。
- ・子どもが少ないので、お祭りなどではお土産を用意して参加を促している。
- ・地域により若い人が多いところでは、「ろうそくもらい」というような行事が行われ、子どもと大人の交流を図っている。
- ・町内会の行事にお土産を用意し、子どもの参加を促している。町内会の運動会などで子どもと高齢者の交流を行ったが、子どもはクラブ活動で忙しいため参加しない。雨天で予定が延びたら、参加を予定した子どもの人数が半減した。
- ・子どもはスマホを見るのが忙しく親との会話もない。親子がともにスマホなどで会話がないうちにある。
- ・昔は町内に不幸があったら葬儀に子どもも出席していて、会館での会食などで近況報告をし合った。今は、家族葬になり近所の人との交流が無くなった。隣近所の会合にも参加しなくなった。また、男性と女性では参加の方法も違いがある。女性は知らない人でもすぐ知り合いのようになっている。子どもが間に入ると結構話が弾んでいるようだ。男性は遠慮がちで、積極性がない。
- ・子どもの状況を知るには、近所の大人の状況を知ることが町内会役員の役割である。
- ・今は行事を行っても怪我などが心配される。保険などを考えなければ行事も行えない。
- ・町内会の役員をしているが、子どものいじめの話は入ってこない。学校からも話を聞かない。
- ・学校が終わっても外で遊んでいる子どもを見ない。TVゲーム、スマホ等で一人きりの子どもが多いのではないか。親も、子どもに外で遊びなさいとは言わない。
- ・今の人は自己中心的で、子どもは二の次ではないか。

- ・子ども4人の殺傷事件が起きたが、児童委員としては把握できない。家庭の中まで干渉できないのが現状。どこまで状況把握ができるのだろうか。
- ・核家族化により近所の人との交流も少ない。そのような時代になった。学校での指導も弱くなった。学校でのことがすぐ教育委員会に届く。モンスターペアレントがあまりにも多い。
- ・小学校で地域マップ作りを行っている。ここには病人がいるとか、様々な情報を子どもが共有してマップに落としている。これは参考になるし、協力もしてあげたい。

第18・19グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

江別市：赤ちゃん誕生祝を行うことを自治会に積極的に提案し、児童委員2名で訪問している。

- ・地域の状況を知り、地域全体で児童を見守り育むため、子どもたちとの交流を実施。関係団体との連携した取り組みをしている。
- ・行政の仕事の一部を手伝っている。
- ・小学校、町内会、社協、町連、行政と積極的に関わりを持ち、各種イベントや事業のサポートをしている。
- ・サロン（居場所）、世代間交流、学びの広場、悩み相談会、学校行事への参加等の取り組み。夏と冬休み前の校外生活委員会の参加、広報紙の発行、ひよっこ寺子屋や学びの広場、盆踊り、ラジオ体操、季節の行事（餅つき・豆まき・焼肉等）、交通安全活動、安否確認、登下校の見守り等多様な活動がなされている。

第20グループ

○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

旭川市：子育てサロンは乳幼児1～3歳までを対象に実施。10時から12時で、11時におやつタイム。季節の行事にあわせて折り紙、絵本の読み聞かせ、輪投げ等自由に遊んでもらう。その間、親同士の情報交換を行い、子育ての悩みなどの話し合いをしている。

函館市：児童館を中心に児童委員が見守りやお手伝いをしている。時には「おやつ作り」やビンゴ大会をしている。

富良野市：子どもの関わりはほとんどない。子供会と高齢者会との合同企画をするが、高齢者の出席が少ない。

- ・子どもたちに昔のおやつなどを手作りしてあげたいが、アレルギーなどの問題もあるのでそのことも妨げになる。

江別市：町内会の総務になって少し地域の事情がわかってきた。児童委員になってからは、ラジオ体操、花火大会、町内会旅行等、子どもたちとともに参加する機会を作っている。

帯広市：町内会と子供会の関わりは、町内会が助成金を出すだけであまり関わりを持っていない。これからは町内会が子供会に関わるよう働きかけていく。

- ・子どもサロンの行事で、認知症の方が紙芝居を見せることで元気になっている。
- ・学校一斉公開の行事があるので出かけてみると、少しずつ様子が分かってくる。定例会でその報告をしているところもある。

- ・声かけをすると不審者として警察に通報されることもあるようだが、常に声かけすることにより警戒されることもなく、信頼関係ができてくる。

第21グループ

- 旭川市：ふれあいサロンを月1回開催で50名くらい参加。社協が主催し、子どもが対象であり協力している。メニューは三味線、ミニバレー、絵本の読み聞かせ、百人一首、盆踊り等だが、参加者が固定していることが課題。
- 江別市：月1回遊びの広場を開催。0～3歳児の親子が対象。生後2か月の赤ちゃん家庭訪問で絵本2冊他を届ける。民児協と学校の情報交換のため、児童委員が学校に行き子どもたちと交流する。下校時子どもの見守りをしている。
- 帯広市：年1回、児童委員が小学校を訪問して授業を参観している。夜間、青少年センターの方々と夜回りをしながら子どもたち（小・中・高生）を見守っている。サロン活動を通して老若男女が楽しんでいる。
- 函館市：小・中学生登校時に見守りをしている。学校と地域の交流では、小学4年生を対象に昔の遊び（けん玉、百人一首、パッチ、おはじき、ゴム飛び等）をしている。夏休みと冬休みの前に校外生活専門委員会を開き、港まつり神社祭典に巡視している（児童委員、町会役員他）。
- 北見市：年1回4月に中学校と保育園に顔を出している。また、学校行事、入学式、卒業式、運動会、学芸会にも参加している。赤ちゃん誕生日1か月、2か月の間に絵本、おむつ、石鹸の試供品を提供している。
- 旭川市：赤ちゃん訪問（『うぶこえへの贈りもの』で絵本とおしりナップ）。学校パトロールは登下校の見守りを行う。
- 江別市：夏祭りに子ども広場を児童委員が担当する（ヨーヨー、スマートボール、トランポリン）。

第22グループ

- ・子どもたちの交流会で花火大会を開催し、縁日も本年度から取り入れた。
- ・高齢者と子どものサロン活動を毎月実施。
- ・登下校時の声かけ見守りで、だんだん子どもたちから挨拶が帰ってくる。
- ・家遊びの子どもが多く、背景が分からない。
- ・年1回焼肉パーティーを開催しても100世帯くらいの参加があるが、子どもは10人くらいしかいない。
- ・地域に人数は少ないものの子供会があるが、親が動こうとしない。
- ・校長によって地域の関わりが変わる。
- ・（声かけで）最初は不審者でも、そのうちに顔を覚えてくれて応えてくれるようになる。
- ・ラジオ体操もシールを貼って引き付けている。
- ・学校行事には企画から協力し、参加もできる体制にしてほしい。
- ・親も子どもも忙しすぎるので、そこをどうしたらよいものか。
- ・いろいろと地域差があるので、これがいいとはならない。
- ・町内の家庭状況を把握するために、数年に1回調査をしている。

- ・町内会として子供会を立ち上げるにはどのようにしたらよいのか。
今の親は他の人たちと関わりを持ちたくないし、子どもたちは部活で忙しいし、両親も共働きなので大変と思われる。

第23グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・子どもには常に声かけをする。発表会などにはなるべく参加し、学校とのつながりを強くする。
- ・今の子どもたちは本音の見えないこともある。
- ・町村の方では比較的子どもたちとのふれあいは強いと思われる。
- ・集団下校のお手伝い、放課後の学童保育の手助けをしている。
- ・パトロール活動など、主任児童委員の手助けを受けながら活動している。
- ・そのほかでは、高齢者の食事の補助を町ぐるみで行っているところもある。
- ・まとめとして、子どもたちに対しても高齢者に対しても見守ることが大切です。その中で次に起きる事故を未然に防ぐことができますと思います。

第24・25グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・児童委員のグループなので子どもの情報収集は難しいとの声が多かった。
- ・巡視活動を通じて子どもを知るようにしている。
- ・巡視活動の中でもパトロールしている。登下校時、子どもと顔を合わせ、声かけをして知り合うこと。マンションを訪問しても、セキュリティが厳しいし拒否される時代になった。
- ・高齢者サロンを通じて学童との交流を行っている。夏休みには流しソーメンをして、夏祭り風になっている。
- ・地域の子供会があり、町内会から活動費の助成を受けて子供会が主体的にお祭りや地域のスポーツ活動に参加し、老人会を実施しておもてなしをしている。
- ・児童館のボランティア活動で母親のクラブと一緒に子どもとの交流を行っている。
- ・地域として月1回、季節に応じて七夕やカルタとり等で交流している。
- ・北見市では6月に社協主催の『子どものつどい』祭りがあり、大人も児童委員も参加する。
- ・孫を通じて情報収集をしている。
- ・主任児童委員との意見交流が大切で、学校訪問の際は同行し共通の情報を得ることが大切です。

第4分散会 グループ協議記録概要

司会者 所 とみゑ 氏（北見市第5地区民児協主任児童委員）
助言者 大 場 信 一 氏（児童養護施設札幌南藻園園長）

第1グループ

- 千 歳 市：子育て支援センターで子育てサロンを利用できるし、ホッとしたいときはファミリーサポートを利用できる。民児協がサロンに取り組み、児童館祭りでは「子育てするなら千歳」Tシャツを作った。
- 苫小牧市：児童センターで子育てサロンを運営し、いろいろな家庭の子どもの問題を把握している。おもちゃの貸し出しをしている。
- 幕 別 町：コミセンを会場にして、退職した先生が勉強を教える取り組みを始めた。
- 小 樽 市：子どもがいない。学校の統合が始まった。
- 東神楽町：役場保育士が子育てサロン（月～土曜日）を開いているのでお手伝いをしている。独自の活動として学校訪問をしている。
- 幕 別 町：地域の日を設けて毎月学校訪問をしている。学校を訪問、いろいろな問題を抱えた子の話をしてくれる（問題を抱えた子の母も問題を抱え、孤立しているなど）。
- 名 寄 市：ある学校でチョット先生というシステムがあり、ミシンを使う授業でお手伝いをしてくれる。
- 千 歳 市：課題は、どこまで心配な子どもの家庭に入ることができるか。また、サロンなどに参加してもらえない親にどんな声かけができるかということ。考えていかななくてはならない。

第2グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- 幕 別 町：教育の日があり、委員2～4名が学校に行き、児童の問題情報を話す。主な活動は見守ること。
- 千 歳 市：いじめや不登校の情報はなかなか出てこない。『オアシス』という不登校の児童の支援の場がある。
- 苫小牧市：団地が多い。学校との情報交換は比較的密。何かあると行政、児童相談所、ソーシャルワーカーが家庭訪問する。虐待の情報があるときは介入せず見守る。ケース会議が頻繁に行われず、要請があれば動く。
- 小 樽 市：児童が問題を起こし、警察から主任児童委員に連絡が入り、学校に連絡するかどうかは任せると言われたことがあった。
- 浜頓別町：大きな問題は起こらないが、小さな事柄はある。しかし、こちらから働きかけないとケース会議が開かれない。発達障がいの子が多い。
- 苫小牧市：例会の中で事例を上げ、それについてソーシャルワーカーが中心になって勉強する。
- 幕 別 町：不登校の中には家庭に問題があることも…。
- 浜頓別町：子ども園から高校まで訪問して話を聞く。しかし、年齢が上がると表面上に出ない。
- 千 歳 市：年8回児童部会が行われる（定例会の他）。外部（警察など）から人を呼ん

で現状の勉強をする。

小 樽 市：ネットパトロールといって、市内の小学校の事務員が全小学校の見守りをしている。

- ・児童委員もインターネットの勉強会を要望しよう。
- ・スクールソーシャルワーカーともつながろう。

第3 グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

枝 幸 町：子どもがけがをした時に、子どもより父親に気を遣う母親がいた。

本 別 町：連携を持ちたいけれど、ケース会議にも呼ばれない。

苫小牧市：家庭を遠くから見守るだけでいいのだろうか？

枝 幸 町：ブックスタートでは保健師と一緒に訪問する。

滝 川 市：『こんにちは赤ちゃん事業』で第2子以降を訪問する。有意義な取り組みだが1回だけで終わるのではなく、3か月健診、6か月健診等継続的な活動につなげていきたい。

枝 幸 町：先生たちと一緒に学校で定例会を行う。

小 樽 市：学校訪問するが、顔合わせのレベルで終わっている。

滝 川 市：学童保育や子育てサークルにボランティアで参加する。赤ちゃん訪問のときに母親の心理を読み取るようにする。スマホに向かう時間が多く、子育て情報はパソコンから得る。母親自身は孤立していると思っていないのでは…。

小 樽 市：町内会の行事（盆踊り、お祭り、お正月）に母親と子どもを招待する。

本 別 町：社会教育課などに働きかけ、具体的なイベントを企画してもらう。

第4 グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

【現在のいじめの内容は昔と違う。それぞれの地域ではどうか】

- ・学校訪問で子どもの様子を見ている（不登校気味の子どもの多くなっている気がする）。学校ではいじめを調査して把握に努める（児童委員に後から情報が来る）。
- ・生活指導者連絡会で情報を交換している。ネットでのいじめが目立つ。学校では手におえない。地域性も関係してくる。
- ・スマホを使ったいじめが増えている（小学校でスマホの使い方を指導）。
- ・非行は減っているような気がする。帰宅時間が遅くなっている（公園で花火など）。非行の状況が分からなくなっている。

【どの問題も家庭の問題が大きい】

- ・問題のある子が市内を転居して回り、その各地区の委員がその都度その子の問題に取り組んだ経験があった。今は見守りの形になっている。関わりの難しさがある。
- ・不登校児（自閉症）のことで学校から連絡があり、母親と話してみると母親も障がいを持っていて、生活が大変な状況であった。主任児童委員が相談相手になり、子育て支援をしたことで信頼関係を築く。その後、学校とのつながりも作ることができた。
- ・行政が歩み寄ってもらえればやりがいがある。
ケースワーカーと連絡を取りづらい。役場とのつながりをつくる。個人情報保護法

で難しくなったこともある。

第5グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- ・教育委員会より、突然不登校の個人情報を提供された。小学校、中学校、高校の全校の不登校の氏名、学年の公表を受けてのケース会議が持たれた。異例である。公表された意図はSOS。教育現場だけで手が回らない実情があったと思われる。
- ・3か月に1度、ケース会議に呼ばれる地域があり、必ず大なり小なりの問題はある。相談に乗り協議するも、事後の経過や結果が行政からはない。
- ・半ネグレクトという家庭。お母さんが夜間の仕事をして、朝食やお弁当の用意ができない（学校行事のとき）。子どもが中学生、あるいは小学校高学年であれば、自炊の方法などを教え自立を促す。
- ・保健師が主任児童委員を知らないということがあり、認知度アップのため、入学式などに父母らに手作りのチラシ配布が有効だったという例示もあった。

第6グループ

○テーマ2「子どもの問題発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力のために）」

- 釧路市：三世代で暮らしている家庭が多く、学校からの連絡が多い。平成25年生まれの子からブックスタート（担当内の家庭に届ける）。絵本2冊と子育てサロンのパンフレットを持参する。連絡せずいきなり行くが、留守の場合は連絡票を入れて来る。心配なお母さんと思ったときは役所に連絡する。
- 苫小牧市：小学校1校に対して1つの町内会になっている。学校が休みの時の子どもたちの様子を知らせてほしい。学校側からの情報も提供してもらっている。
- 北斗市：年2回、小・中校の校長と教頭と児童委員が集まって、情報交換をしている。校長や教頭が変わっても続いている。あと一步の進展を話し合っている。
- 苫小牧市：2か月に一度、教頭、児童委員、町内会等が集まって子どもたちのことを話し合っている。
- 美幌町：赤ちゃん訪問は保健師だけが訪問しなかなか関われないので、もう一度関係を持ってみたい。ブックスタートは図書館で行っている。社会教育でリフレッシュママセミナーを募集していて、1回に15人くらいでやっている。半年の間隔で6回行われ、各2時間程度。開講式に参加して参加者と話をしている。
- ・主任児童委員の存在をあまり知られていないと感じるときがある。
 - ・学校訪問に行ったとき、給食を試食させていただく。
 - ・学校側からの要望で、主任児童委員との連携を求めてきているように思う。

第8グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- 苫小牧市：町内会の青少年の部に所属。地域の仕事を通しての小学生との関わりが多い。170名ほどの中で子供会会長と連携して学校とも接する機会が増えている。

る。クリスマス、餅つき、夏祭り、盆踊り等の他に、他の町会の子供会との交流でキャンプも行う。主任児童委員の立場として入りにくい。虐待が多いとの報道はあっても、全く分からないのが実態。情報がほしいと思う。学校訪問は行事に参加する形。

旭川市：児童委員より主任児童委員の認知が低い。商店街の活動の手伝いをするにはある。主任児童委員として児童に関わる依頼はない。見守りが必要な子が転入してきたとき、その子の状況を聞かれるが、行政の方がよく知っている。それ以上の情報は持っていない。

「絵本を届ける」のが第一の仕事。第1子のときは自分の連絡先を伝えてくる。放課後の学校での学習ボランティアを募集しているが、個人的な活動なので主任児童委員としては参加していない。近くの学校でもやってほしいという嘆願書を出したが、よい返事はない

北斗市：市役所担当課、学校との連携は密。個人情報も開示してもらえる。行事参加の他に毎年学校等（小・中・高・幼稚園・保育所・児童クラブ）を訪問しているので、認知されてきたのだと思う。

北広島市：子どもは増えず高齢化している。母親の負担が大きくなり、2年前に子供会がなくなった。行事にあわせて学校訪問する。情報がほしいと思い参加するがなかなか入手できない。主任児童委員としての活動があまりないと感じている。主任児童委員間でも個人情報は漏らさない。守秘義務？

湧別町：主任児童委員としての関わりは、まだ、ほとんどない。

- ・ケース会議に出ても、児童委員は不要ではないかと感じることがある。
- ・主任児童委員の会議は地区によって、ない、年2回、6回、毎月等、様々です。

第9グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- ・主任児童委員はまだまだ地域では認識度が低いので、もっと自分たちを分かってもらうよう努力が必要だと思う。
- ・学校に関しては校長が変わると学校の雰囲気も変わるので、それにより情報の開示をしてもえらなくなる場合がある。もっと情報交換が必要だと思う。
- ・市町村によって、生後まもない乳児への絵本のプレゼントを、旭川、苫小牧、北広島等で主任児童委員が中心になって行われている。このような事業はとてもよいと思う。
- ・PTA役員をきっかけに、町内会役員や主任児童委員を始めるケースが多く、地域や学校との連携が強い。

第10グループ

苫小牧市：活動が広い。小・中3校ずつを主任児童委員2人が受け持つため手が足りない。学校関係（行事、参観日）の参加や地域子供会に参加する。子育てサロンではなく、高齢者向けのサロンを立ち上げている。

北広島市：大曲西部地区で特別支援学級と児童委員との月1回の交流が始まった（ゲーム、畑作業、収穫）。子育て『しゃべり場』を会館や保育園で、児童委員と2～3人とお母さんたちで行う。夏休みにも学童保育所に行き、一人

でいる子どもとカレーを作り、ゲームをして遊ぶ。費用は民児協持ちで、30名弱が集まった。

- 小樽市：小・中校、支援学級、幼稚園、保育所を、夏休みと冬休みに回って様子を聞く。部会長を含め委員3人で学校行事に出席する。学校訪問後、報告書を定例会に提出し、学校長にも渡す。朝の児童の見守りをしているが、子どもが減ってきている。
- 江別市：主任児童委員の自主的な活動としては、学校訪問、学童保育や児童センターの訪問がある。赤ちゃん訪問（3、4か月の赤ちゃん）は、絵本2冊とサンプル品を届け、情報提供もする。子育てサロン（遊び広場）ボランティアも行うが、子育て支援センターが主体となっている。
- 旭川市：平成20年からこんにちは赤ちゃん事業を実施。中学入学前の児童と交流。公民館や児童センターとタイアップし子育てサロンを月1回実施。児童委員がチラシを配って参加を呼びかける。小・中学校の評議員も兼務し、外に出せない情報を共有することもある。先生たちの「あの子は〇〇だから」という先入観を改善したい。玄関または中に入ることもある。赤ちゃんのうちから（生まれた時から）地域で見守る姿勢が大事。サロンの情報から一時預かりの情報を伝える。検診の確認もする。携帯には出てくれなくても、ショートメールだと返信してくれることも。お母さんに会って「あれっ」と感じたら、報告書に記入する。
- 旭川市：子ども総合相談センターが立ち上がった。お母さんによい情報をお知らせしたいので、内容を知っておいた方がよい。
- 小樽市：同様の施設があるが、あまり入っていけない部分がある。行政と話す機会がない。行政だけでは手の回らない部分がある。全国の研修に行ってから子育てサロンを立ち上げた。やる気があると取り組めることも。
- 旭川市：保健師と主任児童委員が赤ちゃんを訪問するのは、ほぼ同じ時期。
- 江別市：保健師が赤ちゃんを訪問した後、2～4か月に訪問。赤ちゃん訪問によって地域で赤ちゃんを見る土台ができていく。
- 旭川市：主任児童委員と児童委員が2～3人ペアで回るので、主任児童委員と児童委員の関係がよくなっていくことも。地域の子どもの目に向くようになったという声もある。

第11グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- 小清水町：『いじめ対策会議』が年5～6回ほどある。子どもたちからいじめについてのアンケートを取り、情報交換している。この会議には学校の先生、教育委員会、警察関係者も参加している。学校からも情報がもらえる。町ぐるみの見守りができている。
- 苫小牧市：懇談会や、小・中校との情報交換はあるが、いじめなどについてはケース会議で市の担当者から伝わる。会議で情報は共有されるが、結果を教えてもらえないので気になっている。情報だけでも、関わった以上気になるので、結果を知りたい。結果を聞くことによって、自分も勉強になるので。
- 旭川市：新生児に絵本を渡す活動の中で、気になる子どもがいたら保健師に見に行ってもらおうこともある。

- ・主任児童委員の認知度が低い場合は出向いて覚えてもらう。顔を売ることも大切。また、学校との情報共有も先生の異動などで考え方も変わるので、関係（つながり）も大切。先生たちにしっかり覚えてもらいたい。学校の入学時には各家庭に名簿を回したり、回覧板で回したり等で知ってもらっている。
- ・僻地から来た子どもが中学で一緒になると、いじめ、不登校になりやすかったが、根本的なものは家庭。親の考え方。
- ・子どもの様子を見るのは大切なことだが、親の様子をしっかりと見ていくのも大切。そのためにも様々な機関との情報共有が大切。親をささえていくのも今後は大切。どこまで関わっていいのかわからないことも多いので、どこにつなげていくかなど、改めて考えるのも大切。

第12グループ

○テー4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

苫小牧市：学校関係者と話をするようにしているが、学校から情報は入らない。

旭川市：学校訪問をして顔を知ってもらい、連携をとるようにしているが、特に大きな問題などはなし。

栗山町：中学校が統合になった地域の格差が気になるが、子どもの数が少なくなってきたせいかな特に大きな問題はないようである。

旭川市：スマホに関するトラブルが中学校生活であるようだ。先生も大変なようだ。

苫小牧市：地域の人から不登校の情報が入り学校へ連絡するが、学校側も把握しており、積極的に学校からの提示はない。

旭川市：不登校の生徒はいるようだ。ネグレクト的な家庭環境が関係している。

- ・先生たちは一生懸命頑張っているがなかなか難しい。親の問題が大きい。どうやって支援していったらよいのか？
- ・不登校の生徒を見たら関係機関に連絡を取っている。
- ・学校との交流を深めるために各自それぞれ活動している。地域により見守りや活動内容が違うようである。

第13グループ

○テー4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

稚内市：毎月学校からお便りをもらう。月1回、教員と児童委員が集まって情報交換をする。

苫小牧市：年3回集まって教員と主任児童委員が情報交換をする。

湧別町：ケース会議などは全く呼ばれない。

苫小牧市：学校訪問をしている（地域にも開放）。教頭や校長との話し合いもある。

北斗市：毎月子育て支援課との情報交換を行う。

- ・お母さんの支援の後、行政、学校、児童委員の連携により、不登校の子が学校に戻ったケースもある。
- ・福祉課と連携してゴミ屋敷の片づけをすると、子どもが学校に行くようになった。でも、どこまで関わっていいのか、距離感が難しい。
- ・どうにかしたいという思いの強さが問題解決を決めるような気がする。

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・ネットトラブルに関し、ネットパトロールを作っている。フェイスブック、学校裏サイトは把握できるが、LINEなどは難しい。
- ・スマホを持たせないというより、ルールを決めて持たせる（しっかり教育する）方がよい。
- ・親がネット環境についていけない。子どもが先をいっている。
- ・携帯電話教室をしている。
- ・主任児童委員同士の情報交換は大きな町にはない。小さな町なら（2～3人）なら情報交換はある。
- ・ボランティア（児童委員）としてどこまで関わるのか、どこまでするか。分からなくなることもある。皆さんならどこで線引きしますか？ という話があり、信頼されているということなので、自分の心、体が許せば頑張っ…という答えがあった。
- ・町によって主任児童委員の必要度合いが全く違うのに驚いた。

第15グループ

旭川市：『うぶごえへの贈りもの』に取り組んでいる、生後2か月の赤ちゃんに主任児童委員が絵本を届ける。

稚内市：地域の支援ネットワークがあり、小・中学校に児童委員を呼び情報交換する。小・中学校合同でスクールソーシャルワーカーや町内会も交えて子どものことを話し合うこともある。情報交換の場となっているが、物足りないう感もある。問題があるとされた家庭まで行き、効果を上げている。

大空町：学校から情報が入ることもあるが、校長によって差がある。

比布町：教育委員会から不登校の支援を直接要請されることもある。学校からも頼まれた。

- ・支援する家庭が増えている。離婚や母親の病気等、親の問題が大きい。
- ・先生が親と連絡を取り合うのが大変。今の家庭は問題を多く抱えている。

第16グループ

北見市：小学校の訪問を重ねていくと積極的に話してくれる。中学校から相談があり、家で犬と猫を飼って臭いがひどいので、家庭の状況を知りたいという。

帯広市：学校と民児協の担当がはっきりしているので活動しやすい。

比布町：学校から行事（運動会、学芸会）の案内がなく、児童委員としての席は設けられていない。いろいろな委員（教育委員、学童指導委員、人権擁護委員等）をしているのでその方の関わりは多いが、主任児童委員としての関わりは低い。

安平町：読み聞かせを20年、子育てサポートもしているが、地域に溶け込むのが重要。自分の目や耳で聞いて、話をして解決している。関係機関は情報だけをほしがる。民児協定例会には警察が参加する。

稚内市：虐待死があった後、児童委員が大変忙しくなった。行政から民児協に連絡が多くなって、連携がとれるようになった。4月は学校訪問がある。子育て支援ネットワークサポート会議が月1回あり、問題のある家庭の事例を個別に話す。教育相談所が適応指導教室『つばさ学級』を設置し、不登校

児などが通う受け皿になっている。各自治会と町内会の名簿に主任児童委員の名前を載せてもらっている。福祉課では登校拒否など子どもの問題はあまり把握していない。民児協定例会に校長先生（教頭）に来てもらい、話しをしてもらう。児童館祭りで主任児童委員がアトラクションなどを行い、アピールしている。見守りではどのようなことをしたらよいのか。突然、「不登校なので見守りを」と言われても困る。小さなときから関わるのが大事。

第17グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

北見市：こんにちは赤ちゃん事業を主任児童委員が取り組む。第1子・2子が生まれた世帯すべてを、絵本、おむつ、市のPR、遊び広場のPRを持って訪問する。訪問した家庭状況を市に報告する義務がある。子どもに長く関わることができる。地域に密着する。児童委員活動をアピールできることなどがメリット。

帯広市：主任児童委員が小・中学校を訪問して情報を共有。放課後の子ども居場所づくりにボランティアとして参加。不登校の子の情報も共有。「〇〇ちゃんはどうしていますか？」というように具体的に把握する。ケース会議になることもあり、前任の主任児童委員からノートや資料を引き継ぐので、小さいころからの状態を把握できる。

愛別町：児童委員と主任児童委員の存在を周知するため、町広報に似顔絵付きで紹介してもらう。子育てサロンを年2回開催。赤ちゃん訪問は、第2子を対象に保健師と一緒に回る。『ハッピーボーン』といって、赤ちゃんが生まれたらお昼12時に花火が上がり、また「生まれてきてありがとう」の思いを込めて、居場所の象徴となる『君の椅子』を贈り、町全体がお祝いする。

八雲町：子供会の子どもの数が減少。子供会を合併することはできない。町内会に子供会と育成部の両方がある。子どもの顔が見られる、世代間交流ができる、子どもが分かれば親も分かることがメリット。子供会がなくなると、子どもが分からない。児童委員でも子どもが分からないというデメリットがある。子供会は少なくなりつつあるが、子供会があることのメリットが大きい

- ・主任児童委員は子どもの顔が分からないと活動ができない。ネグレクトがあったときなどにケース会議に入るところ（市町村）、入れないところがある。この点では、主任児童委員は仕事なのか、ボランティアなのか？どこまでできるのか、見守りしかできないのか。関わった後の報告がない。
- ・主任児童委員を信頼して、情報を流してもらえる関係づくりが必要。

第18グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

愛別町：人口3千人くらいの町で、主任児童委員2名。保健師と一緒に2人目以降の赤ちゃんを訪問。去年から、子育て支援のため児童委員が集まり子育てサロンを開催。おもちゃの病院、お父さんお母さんと子どもが集まって、

おもちゃの病院、のり巻き作りや、冬はクリスマスで楽しむ。不登校はほとんどないようだし、小学校と幼児センターから入学式の案内が来る。地域が赤ちゃん誕生を祝い、『ハッピーボーン』や『君の椅子』をプレゼントする。

江別市：こんにちは赤ちゃん事業に取り組む。市からの絵本2冊と企業からのプレゼントを持って、主任児童委員9人で600人の赤ちゃんを訪問する。市から訪問のポイントを示すマニュアルが出され、観察した記録をカードに記入して提出する。ご近所のおばさんとして訪問し、「何かあったら電話してね」と話す。子育てサロンは7か所あり、児童委員、主任児童委員がお手伝いする。年1回の子育て祭りもお手伝いする。学校訪問で各種行事に参加し、市が学校一斉解放するときはいろいろな学校を見に行く。地域を知ろうということで4年前からの取り組みで、年1回、児童委員とともに児童館やその他の施設を訪問し、部会で発表する。学校で不登校などの問題はあがるが、具体的にあまり話してくれない。PTAなどをしているので、学校とのつながりあるだろうからと、話をしてくれるお母さんも多い。

岩見沢市：親子広場を市内14カ所で開催（会場は児童館）。主任児童委員で親子と交流。学校訪問は各種の学校行事に参加。定例会を学校で開催し、先生と話し合い給食の試食も行うこともある。

江別市：学校行事の地域交流に児童委員にお手伝いの声が掛かる。学校やお母さんたちと交流できる。

北見市：学校訪問でいろいろと話してくれるのでつながりが強い。小学校2校が不登校ゼロになっていた。不登校は親の責任によるところが多い。学校行事の案内はあるが、児童館は児童委員を受け入れてくれない雰囲気がある。最近ケース会議はほとんど開かれていない。『こんにちは赤ちゃん』は特に問題のない第2子を対象に、企業からのプレゼントを持って主任児童委員だけで訪問する。子育てサロンには主任児童委員は関わっていない。

第19グループ

江別市：赤ちゃん訪問や子ども広場の手伝いをしている。

浦河町：主任児童委員はスクールソーシャルワーカーを兼務する。虐待家庭や発達障がい等に留意する。

岩見沢市：親子広場は委員複数で担当する。親の立場で学校と情報を共有する。

北見市：児童広場で手遊びを担当し12年目になる。こんにちは赤ちゃん事業は年30件訪問。下校時の巡回は腕章をつけ、不審者の出没を防止する。

岩見沢市：地域ふれあいマップを年2回更新。独居、高齢者、赤ちゃんなどの孤立を防ぐ。支援などの対応のため、スーパーバイザーを招いて検討する。この人を誰が見守るのか？を明確にするのが目的。子育て専門行政が、1つの建物におさまっている。

- ・ラジオ体操は朝早いというさいと言われるので、朝7時から実施。町内会の担当は大変なので学校と連携。
- ・携帯、スマホによるいじめがあり、親も使い方を熟知する、自己責任を教えることも必要。
- ・スマホ環境の中にあっても、挨拶を失わないことが大切。

第20グループ

○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

- ・親子のコミュニケーションがうまくできていない。
- ・子どもの面倒が見ることができないから、「預けちゃえ」みたいなどころがある。
- ・夫がいないとき叱るのもなだめるのも、母一人は大変。
- ・余裕がないので子育てをしながら目の前のことしか見えていない。
- ・今の若者はすぐやめる。子育ての問題は、そんな人たちが親になるから？
- ・虐待するよりは保育所に預けて、母はリフレッシュ。
- ・スマホ事件が起きることが心配。
- ・不登校とか（の話になると）、（先生は）「学校に来ているんですけどねえー」。
- ・親も子も助ける、学校の先生をほめる、認めてあげる。
突っつかれるのが嫌じゃないかと思うので、児童委員は学校に出向いて行き、子どもの情報交換をすべき。親の困っていることをしっかり聞いてあげよう。
- ・アスペルガー的なお母さん。子どもの健診なのに、子どもを連れてこないで来るお母さんもいたらしい。「子どもを連れて…」と書いてなかったのも…。
- ・保育園に保健師を呼び、育児相談を行う。発達に関わることや、生活習慣が乱れている家庭の話聞いてもらっている。

第21グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や学校との交流を深めるために」

- ・一人で対応していると重くなってしまうので、他の主任児童委員と一緒に動く。
- ・不登校、虐待、ネグレクト、お母さんの鬱等いろいろな問題があり、ケース会議が開かれ、保護担当、児童相談所、保健師、学校の先生、精神科の先生等、たくさん関係者の中で解決していく。長引いて解決しづらいものもあるが、つなぎ役として活動している。
- ・重なるときは1か月に4件ということもあり、仕事をセーブして対応することもある。また、ケース会議の前に、少しでも状況を把握するために家の周りを見ることもある。
- ・つながりの一例として、母子家庭に年1度、図書カードを配る機会があるので顔を合わせることができる。
- ・役場との連携では、気になる家庭の情報を提供してくれる。
- ・信頼関係ができているので、学校や行政からも連絡があり、密に連携がとれている。
- ・子ども検診について、小3以上で子どもの生活習慣病予防のため、申請のあった家庭は町の保健師が血液検査を行う。気になる家庭があったときは、保健師が問診をしてくれる。
- ・子ども園に子育て支援員が常駐していて、子どもに関すること全般に対応する。必要に応じて支援員が情報を発信してくれる。主任児童委員は家庭と支援員の橋渡しをしている。
- ・行政の持っているサービスも上手に利用する。児童委員と学校との信頼関係が大切。私たちはつなぎ役を担う。一人でできることではないので、力を合わせて見守ることだと思う。

第22グループ

- ・親の離婚で新しい母と暮らすことになった中3男子に問題が。塾の先生から児童委員に情報が入る。男子は学校から児童相談所に直行。祖母が同行した。先生や児童委員等、肩書を持っていくと入っていけない。地域とのつながりは時間がかかるが、信頼関係を築けるのでは。
- ・周りのサポートも大事だが、子どもが自身のことをはっきり言える環境づくりが大切。
- ・小学校の場合2年ごとの担任制で、囲い込みが引継ぎの上で障害になっている。若い先生は打たれ弱くなってきている。子どもに向き合っていきたいが、仕事が多すぎてできない。
- ・スクールカウンセラーを配置し、先生の負担を軽減。ケース会議に積極的に関わり潤滑油となる（保護者と学校以外に第三者として関わる）。
- ・児童委員と主任児童委員は学校委員会に認知されなければ、学校に入り込めない。
- ・日ごろから放課後支援など、いろいろと関わる立場を活用して、主任児童委員を認知してもらう。
- ・立派なレポートを作成することに労力を費やすのではなく、子どもにその時間を向けてほしいと、生活安全課から言われた。
- ・急に身長が伸びホルモンバランスが崩れ、起立性調節障害と診断された中2男子。朝起きることができずに午後になって母親同伴で登校するように。行事のときは無理に登校すると、友達が待っていてくれた。3年生になり普通に登校。子どもに強制せず、周りがゆっくり子どものペースに合わせたことがよい結果になった事例。
- ・不登校の子どもに学校に行きなさいと言うのは、高所恐怖症の人に高いところから飛び降りなさいと言うことと同じ。
- ・「なんで」というと、未来がない。一緒に考える努力が大切。
- ・不登校になった経過を家庭と学校で共有できない。仕事のために親が子どもより早く家を出る。
- ・医療・介護系の仕事に就いている家庭の子どもに不登校が多い。
- ・不登校の原因を探すよりは、どうすれば行けるようになるかを考えた方がよい。
- ・子育ては100から見ないで、ゼロから見る。
- ・親にも間違いがある。素直に謝るべき。
- ・イライラしてあたりまえ。「ごめんね」は「ありがとう」と言った方が受け入れやすい。

第23グループ

- 千歳市：主任児童委員2人を中心に児童委員の協力を得ながら子育てサロンを実施。4か月検診時にサロンを紹介。コンシェルジュ（市経営で、子育てセンターに2か所）が新設。毎日運営されていて、来られないお母さんの悩みを聞く。虐待のネットワーク会議が年3回開催される。学校、市役所担当、児童委員、主任児童委員等が参加。
- 留萌市：児童館との関わりが多い。学校との連携では、年4回校長、教頭、児童委員、主任児童委員とで情報交換を行う。

北 竜 町：小・中校合わせて 150 人の児童・生徒。2 か月に 1 度くらい顔を出す。保育所から中学まで一緒に顔ぶれ。思春期になると複雑な部分も出てきていじめがあったりする。小さな町なので情報が入る反面、知れ渡ってしまう。誤解がないような説明が必要になる。仲たがいで不登校になる例もあり、親まで不仲になる（LINE も関係）。今は、保健室登校まで改善。

美 唄 市：学校との連携はできていて、行事などに呼ばれ、放課後教室のボランティア協力もしている（週 1 回程度）。学校から相談があったときの対応で、どこまで入ってよいのか迷うときがある。

【虐待について】

美 唄 市：学校と市担当等で対応する。ケア会議にすぐ入ることが少ない。

千 歳 市：情報を市に確認すると、すでに知っていた。

北 竜 町：児童相談所に直接行くケースがあり、事後報告のことがあった。

第 2 4 ・ 2 5 グループ

○テーマ 2 「子どもの問題発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力のために）」

苫小牧市：生活保護受給の母子家庭（3、4 歳の男児）の母が夜の仕事に就き様子が確認できなくなり、その後餓死する事件が起きる。その後、赤ちゃん訪問制度ができ、保健師などと情報交換ができるようになった。

千 歳 市：ファミリーサポートセンターの利用状況から、家庭に宗教的問題があつて予防接種を受けないなどの問題が見つかったが、保健師が訪問して対処してくれた。

陸 別 町：長男（小学生）、長女（生まれたばかり）の 4 人家族で子の父がそれぞれ違う。長男があざを作って登校。父親の暴力が発覚。児童相談所が入り解決へ。母親が再婚したが 4 人兄弟の 3 番目が新しい父親と合わず陸別に戻る。学校で問題を起こし施設入所になる（中学生になって陸別に戻る）。大変だったが、学校、地域、児童委員、行政との連携が取れるようになった。

苫小牧市：シングルマザーで、発達障がいの子を抱え子どもの面倒を見ることができない。生活保護を受けることができるのに、仕事に逃げて子どもと向き合わない。

- ・子どもが問題を起こすのは自分に目を向けてほしいからではないのか？ 親は小さいうちから子どもに愛情を持って育ててほしい。
- ・小さいころから生活習慣を身に着けさせましょう。親の話も聞いて、親子で成長してほしい。
- ・各市町村で大変な問題がありますが、それに対処するたびに連携が深まり、これからの活動に役立つ関係づくりにつながると思う。各機関がそれぞれの立場で出来ることをしていきたい。